

甲 1 2 6 訳文

勝利！ 裁判所は、米国農務省が遺伝子組み換え（GE）テンサイの市場流通を認めたことは連邦法違反と判示した

2009年9月22日

政府はモンサント製品の環境上及び経済上のリスクを適切に評価しなかった

農業者と消費者の連合を代表して「食品安全センター」と「地球の正義（Earthjustice）」が提訴した事件において、連邦地裁は昨日、ブッシュ政権下の農務省がラウンドアップ耐性遺伝子組み換えテンサイを承認したことは違法だと判示した。連邦地裁は、農務省に対し、ラウンドアップ耐性遺伝子組み換えテンサイが農業者と環境に与える環境上及び経済上の影響評価を厳格に行うよう命じた。

北カリフォルニア連邦地裁は、米国農務省の動植物衛生検査部（APHIS）が、環境影響評価報告書を作成しないまま、ラウンドアップの名でモンサント社が販売しているグリホサート除草剤耐性遺伝子組み換えテンサイを承認したことは、国内環境政策法（NEPA）に違反すると判示した。原告団「食品安全センター」、「有機種子連合」、「シェラクラブ」、「ハイ・モウイング・シード」を代表して、「食品安全センター」と「地球の正義」は、2008年1月、動植物衛生検査部を相手どり、同部は、ラウンドアップ耐性テンサイの無制限の商業栽培を許可することの環境、健康、経済に対する影響の適切なアセスメントを怠ったとして提訴していた。

「この判決は、オバマ政権下の農務省に対し、遺伝子組み換え作物による生物学的汚染、及び遺伝子組み換え作物が与える経済的影響を無視することは許されないと警鐘を鳴らすものである」と食品安全センター代表アンドリュー・キンブレルは語った。「裁判所は、農務省の務めはアメリカの農業者と消費者を守ることであり、モンサント社の利益を守ることではないことを明確にした」。

遺伝子組み換え産業は遺伝子組み換えテンサイの採用率は高いと主張しているが、食品業界の人たちは遺伝子組み換えテンサイの受け入れに消極的である。100を超える企業が「非GEテンサイ登録」に参加してGEテンサイの採用に反対し、自社の食品にGEテンサイを使わないため、あらゆる可能な方策を探ることを誓約している。

テンサイの種子は主としてオレゴン州のウィラメット峡谷で栽培されているが、この地域は、有機フダンソウや有機テーブルビートなどテンサイに近い種の重要な育種地でもある。GEテンサイは風媒花なので、同じ地域で栽培されている近縁種との交雑は避けられない。こうした生物学的汚染は有機農家に甚大な被害をもたらすだろう。有機農家の作物がGE品種によって汚染されれば、それを買う人はいなくなってしまうであろう。また、

甲 1 2 6 訳文

GE 汚染は、伝統的な農家の何を育てるかについての決定権を奪い、消費者の何を食べるかについての選択権を狭める。動植物衛生検査部に環境影響評価を命じた 2009 年 9 月 21 日の判決中で、ジェフリー・S・ホワイト判事は、「非 GE 作物を作るという農家の選択肢を奪い、非 GE 食品を食べるといふ消費者の選択肢を奪うことは、人間の環境に重大な影響を及ぼすある種の植物の将来における利用可能性を抹消する行為である」と強調した。

判決は、在来種のテンサイが消えてなくなることはないので、農家はこれを育てることができるし消費者もこれを食べることができる、という動植物衛生検査部の主張を「裏づける証拠はない」と述べ、GE テンサイによる影響はないとする同部の決定は「不合理である」と判断した。

判決はまた、動植物衛生検査部は赤テーブルビートやフダンソウなどの近縁種の生物学的汚染の可能性の分析を怠った、とも述べている。「有機の種子は、有機農業や有機食品のまさに根幹である」と「有機種子連合」のマシュー・ディリオン広報部長は言う。「我々は、GE 作物によって経済的損害を被らない有機農家の権利、非 GE 食品を選択できる消費者の権利とともに、有機の種子というこの自然の資源を守り続けなければならない」。

「判決は、米国において有機食品を育て食べる権利を守るという点で消費者の大きな勝利である」とシェラクラブのニール・カーマンは語った。「ラウンドアップ耐性 GE テンサイが環境に与える影響を動植物衛生検査部は考慮しなかった。今後、その影響をよくよく見極める必要がある」。

ラウンドアップ耐性作物は、モンサント社のラウンドアップを、作物を殺すことなく農地に大量散布することを可能にする。他方、除草剤の継続的な使用は除草剤耐性雑草の急速な出現をもたらす。すでにアメリカ全土で何百万エーカーもの土地でこうした「スーパー雑草」がはびこっており、農家はラウンドアップやもっと毒性の強い除草剤をさらに大量に使用する羽目に陥っている。アメリカ科学アカデミー農業委員会委員長を務めたチャールズ・ベンプルック博士による農務省データの独立した分析によると、ラウンドアップ耐性 GE 作物が導入された 1996 年から 2004 年までの 9 年間で、米国の除草剤使用量は 6265 万キロも増えている。

「地球の正義」の代理人ポール・アチトフの言によれば、「モンサント社は GE 作物の利点を多々喧伝してきたが、GE 作物が消費者にもたらすものは何もない。GE 作物は何よりもまず、除草剤を売るために開発された。その使用の最終的な結果は私たちの環境と食料をより有毒化し、農家を疲弊させ、ただモンサントに利益をもたらした」。

甲 1 2 6 訳文

2008年のある科学研究は以下のことを明らかにした。すなわち、ラウンドアップの不活性成分やラウンドアップによる代謝産物は、試験管内の実験では低濃度でもヒトの胚芽、胎盤ならびに臍帯の細胞を殺す。他の最近の複数の研究は、ラウンドアップの諸構成成分が環境ホルモンであり、ラウンドアップに曝されることは数種の両生類にとって致命的なことを示している。

なお、本訴訟の次回期日は2009年10月30日にかかれ、今後可能な救済命令を含む善後策が話し合われる予定である。

司法省反トラスト局が、GE 種子市場におけるモンサント社の競争抑止的行為を精査するとの観測が高まっている。

本訴訟は「Center for Food Safety v. Vilsack, No. C 08-00484 JSW」(2009年、日付なし、カリフォルニア)である。本判決は、動植物衛生検査部がモンサント社の遺伝子組み換えアルファルファを承認したことは違法であると判示した2009年6月の連邦第9巡回区控訴審判決を踏襲したものである。